



# 町民文芸

## 只見短歌会

十月詠草

大塚栄一

指導

そばの花ほのぼの白く浮きたちて遠くに見ゆる畑はたの帰りに

馬場 八智

目黒 富子

勝負ごとに理解はあれど子供等の涙を見れば我も泣きたし

新国由紀子

祖父母参観に行けば園庭の隅なに生る紫式部の実の膨らみて

渡部ゆき子

遠き日の食糧難を思ひつつ巡るスーパー季節を問はず

関谷登美子

晩秋のまばらな紅葉朝もやに山の頂きつつまれてをり

渡部ヨリ子

丁寧に孫の掘りたるサツマイモ腕より太きを我に見せくる

新国 洋子

見に行けぬわれにと孫嫁保育所の運動会のビデオを写す

(出詠順)

## 只見俳句会

十一月例会

目黒十一

指導

初生りの柿三個とや妻の声  
忘れられ蹴られて一つ胡桃かな

修 一

炊飯の釜に寄る子や栗ご飯  
荷物来る今は種無しブドウかな

都

紅葉の要害山や尾根の松  
和気あいあい公民館のそば祭り

敦 子

吾亦紅名も実もいとし支柱解く  
今年米ほめて又ほめ夕餉かな

弘 子

点となり蒼穹に溶け帰燕かな  
野戦の月ふるさとに酌む月見酒

吉 児

自撮り画の背景に冬来ておりぬ  
初雪やちようど一冊読み終えて

恒 夫

妻の血は我より旨き藪蚊かな  
白菜を摘み終わる待ち西疾風

幸 生

日は午後に庭に均す干し大豆  
茶の花を活け人を待つここちかな

礼

晴天に急かされ一人冬支度  
朝靄の馬拉ソランナー枯葉踏む

信

大根を摘んで蕘屋の宿の中  
初霜や草木すべて氷と化し

一 穂

